

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	静岡産業大学
設置者名	学校法人 新静岡学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>									
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)                  全教員に対し、資料『シラバス原稿の作成について(依頼)』を配付し、シラバス作成の指針を示している。資料の内容の概要は以下の通り。</p> <p>I. 本学の教育とシラバス                  II. 編集スケジュール</p> <table border="0"> <tr> <td>1月18日</td> <td>シラバス原稿の作成依頼</td> </tr> <tr> <td>1月22日～2月16日</td> <td>シラバス原稿の作成</td> </tr> <tr> <td>2月29日～3月6日</td> <td>シラバス原稿の確認・修正</td> </tr> <tr> <td>3月18日</td> <td>webへのアップ</td> </tr> </table> <p>III. 記載要項                  (1) 授業の概要 (2) 授業の到達目標 (3) 提出課題等 (4) 成績の評価方法・基準 (5) テキスト (6) 参考書 (7) 履修条件 (8) 事前学習 (9) 事後学習 (10) 履修上の留意点 (11) 情報機器の活用 (12) ディプロマポリシーの各領域と配点 (13) 学内向けテキスト販売発注票 (14) 授業内容とスケジュール</p> <p>IV. 参考資料                  (1) 静岡産業大学学則(抜粋) (2) 3つのポリシー (3) 文部科学省「設置計画履行状況等調査の結果等について(平成26～令和4年度)」抜粋</p>		1月18日	シラバス原稿の作成依頼	1月22日～2月16日	シラバス原稿の作成	2月29日～3月6日	シラバス原稿の確認・修正	3月18日	webへのアップ
1月18日	シラバス原稿の作成依頼								
1月22日～2月16日	シラバス原稿の作成								
2月29日～3月6日	シラバス原稿の確認・修正								
3月18日	webへのアップ								
授業計画書の公表方法	<a href="https://www.ssu.ac.jp/for-students/academic-information/">https://www.ssu.ac.jp/for-students/academic-information/</a>								
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>									

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

以下の『単位認定の方針について』をHPで公表している。

<https://www.ssu.ac.jp/for-students/academic-information/>

#### 単位認定の方針

静岡産業大学は、本学学則第21条（単位の授与）及び大学・各学部のディプロマポリシー（学位授与の方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に基づき、単位認定を行います。各授業科目において、担当教員は上記を踏まえて到達目標を設定、それをシラバスに明記するとともに、以下の評価方法、評価基準に基づき、学生の学修到達度を評価します。

#### (評価方法)

本学における試験は、試験規程に基づき、筆記試験、レポート試験、実技試験などとなります。各授業科目の担当教員は、学則第22条（学習の評価）に基づき、試験等を評価します。学修到達度を適切に評価するために、評価方法・基準をシラバスで学生にあらかじめ明示し、その内容に基づいて厳格な成績評価を実施します。

なお、教員のメールアドレスを公開し、学生から担当教員に対し、成績に関する照会ができるようにしています。

#### (評価基準)

本学における各授業科目の成績評価は、学則第22条に基づき、2020年度以前入学生はA、B、C、Dの四段階評価とし、C以上を合格とします。2021年度以降入学生は、S、A、B、C、Dの五段階評価とし、C以上を合格とします。評価基準を成績評価基準等に関する細則に示します。各授業科目の担当教員は、学修到達度を適切に評価するために、評価方法・基準をシラバスで学生にあらかじめ明示し、その内容に基づいて厳格な成績評価を実施します。

表 成績評価基準（2020年度以前入学生）

判定	成績通知表の表示	基準	記号	成績証明書 の表示
合格	A	80～100点	優れた成果を示した。	A
	B	70～79点	平均的な成果を示した。	B
	C	60～69点	合格に必要な最低の成果を示した。	C
不合格	D	59点以下	合格に必要な水準に及ばなかった。(履修放棄を含む)	表示 しない
認定	認定	認定の 確認	資格など定められた設定基準を満たした。	認

表 成績評価基準（2021年度以降入学生）

判定	成績通知表の表示	基準	記号	成績証明書 の表示
合格	S	90～100点	特に優れた成績を示した。	S
	A	80～89点	優れた成果を示した。	A
	B	70～79点	平均的な成果を示した。	B
	C	60～69点	合格に必要な最低の成果を示した。	C
不合格	D	59点以下	合格に必要な水準に及ばなかった。(履修放棄を含む)	表示 しない
認定	認定	認定の 確認	資格など定められた設定基準を満たした。	認

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)          本学は以下の算式を『履修ガイド』内にあらかじめ提示し、各学生の履修科目の成績に基づきG P Aを算出している。また、学生には、この数値が極端に低くならないように注意喚起をしている。</p> <p><b>【2020年度以前入学生】</b>          以下の〔分子〕÷以下の〔分母〕          〔分子〕 A の単位数×3 点+B の単位数×2 点+C の単位数×1 点          〔分母〕 総履修単位数(「D」を含む。「認」「履」を含まない)          (注意) 分子、分母とも、卒業要件内の単位を対象とする。D の科目を再履修した場合、再履修後の履修・評価のみを算式に適用する。成績評価において、履修放棄はDである。</p> <p><b>【2021年度以降入学生】</b>          以下の〔分子〕÷以下の〔分母〕          〔分子〕 Sの単位数×4 点+A の単位数×3 点+B の単位数×2 点+C の単位数×1 点          〔分母〕 総履修単位数(「D」を含む。「認」「履」を含まない)          (注意) 分子、分母とも、卒業要件内の単位を対象とする。D の科目を再履修した場合、再履修後の履修・評価のみを算式に適用する。成績評価において、履修放棄はDである。</p>	
<p>客観的な指標の 算出方法の公表方法</p>	<p><a href="https://www.ssu.ac.jp/campus-life/risyu2024_24/#page=17">https://www.ssu.ac.jp/campus-life/risyu2024_24/#page=17</a></p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	

<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>以下のディプロマポリシーを定め、HPにアップし公表している。  また、学生には、資料『履修ガイド』内に表記し、周知している。  3月・9月の教授会にて卒業判定を行い、学則第28条・第29条が定める卒業要件及びディプロマポリシーに基づき、4年生の卒業の可否を審議している。</p> <p><b>【経営学部】</b></p> <p>知識・理解【基礎理論の理解、教養の修得】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科が提供する基幹科目の基礎理論を理解している。</li> <li>・人文科学、社会科学、自然科学などに関する教養を身につけている。</li> </ul> <p>思考・判断・表現【課題の発見と考察、プレゼンテーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代社会における、経営に係る諸課題、個人や組織の心理に係る諸課題、子どもの情操に関する諸課題を、種々のデータに基づき発見できる。</li> <li>・現代社会における、経営に係る諸課題、個人や組織の心理に係る諸課題、子どもの情操に関する諸課題を、基礎理論に基づき考察できる。</li> <li>・発見・考察した内容を、口頭または文章などで的確に表現できる。</li> </ul> <p>関心・意欲・態度【当該分野への関心、主体的取り組み、他者との協働】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営、個人や組織の心理、子どもの情操などの状況や動向に関心を持っている。</li> <li>・主体性を持ち、新たな課題に取り組むことができる。</li> <li>・人間や社会の多様性を認め、様々な人材・組織などと協働できる。</li> </ul> <p>技能【情報リテラシー、コミュニケーション】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・必要なデータを収集し、それらを的確に整理・分析できる。</li> <li>・他者を尊重したコミュニケーションをとることができる。</li> </ul> <p><b>【スポーツ科学部】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツ科学の基礎的な理論、スポーツの意義や課題について総合的視点から理解し、主体性、積極性、協調性を持ち、多様性を認め、スポーツを通じて他者と協働するために必要な能力を有している。</li> <li>2. スポーツ科学を活用し、ライフステージに合わせたスポーツ実践や健康づくり、地域振興に活用できるプログラムを企画・指導し、適切なトレーニングを処方・指導できる知識・技能を有している。</li> <li>3. スポーツ科学の理論に基づいて、学校、地域等でスポーツを実践し、企画・指導する能力を有している。</li> </ol>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>&lt;経営学部の3ポリシー&gt;  <a href="https://www.ssu.ac.jp/faculty/management/policy/">https://www.ssu.ac.jp/faculty/management/policy/</a>  &lt;スポーツ科学部の3ポリシー&gt;  <a href="https://www.ssu.ac.jp/faculty/sports/policy/">https://www.ssu.ac.jp/faculty/sports/policy/</a></p>